

I 事業の概要（地域の実情含む）

葛巻町は岩手県の北東部に位置しており、酪農と林業を基幹産業とする山に囲まれた町で多くの川や沢がある。平成28年の台風10号では江刈川地区で被害が発生し、過去には只見地区で土谷川が氾濫したこともある。

そこで、以下のような事業を展開することによって生徒の防災への意識を高めたい。

- ① 河川の氾濫や土砂災害に関する学習や講演会を通して地域に関連ある自然災害についての学びを深める。
- ② 学習したことに基づいて、地域の河川や沢の観察を行い、改善点がないか検討し、情報発信を行う。
- ③ 被災地見学を通して災害によって暮らしがどのように変わってしまうかを学び、地域の人々の安全確保のために寄与できることを考える。

II 取組の概要

- (1) いわたの復興副読本「いきる・かかわる・そなえる」の活用

2年社会科の授業で、自然災害の発生原因や災害から命を守るためにどうすればよいか、復興副読本を活用しながら授業を実施した。



- (2) 外部の人材の活用

ア 葛巻町の自然災害学習会

葛巻町の防災対策専門員から過去に葛巻町で起きた自然災害にはどのようなものがあるのか説明を受けた。

また、夏休みの課題として、危険箇所等の調査をするので、どのようなところで土砂崩れや河川の氾濫が発生するのか等について観察のポイント

を学ぶため、岩手河川国道事務所の担当から説明を受けた。



イ 岩泉見学学習会

平成28年の台風10号で甚大な被害を受けた岩泉町を訪問し、被災した河川等の視察を行って、学びを深めたり、災害による暮らしの変化を学んで地域の安全確保に役立つことを考えたりする機会とした。



ウ 土砂災害についての学習会

岩手大学農学部の教授が来校し、理科の授業の一環として、土砂災害や災害のメカニズム、被害を少なくするための施設、さまざまな地形について、講義や実験を含めた演習を受けた。



エ 防災気象情報の利活用

大雨等の災害時の行動について、主に防災気象情報を利活用しながらの対処法について説明を受けた。

保護者も一緒に参加することができた。



(3) 講演会等で学習したことに基づいた、地域の河川や沢の観察と改善点の検討

ア 1学期に実施した授業、講演会、岩泉見学で学んだことをもとに、自宅周辺の危険箇所を認識、調査し、写真と地図を使ってレポートにまとめた。

イ 夏休みに調査した自宅周辺の危険箇所をまとめたレポートを一人ずつ発表し、全員で共有を図った。また、作成したレポートは文化祭で掲示し、保護者や地域の方に見てもらった。



(4) その他

ア 2年生が岩手県立総合防災センターへ訪問し、災害の体験学習を行った。



イ 教職員の学び

(ア) 盛岡教育事務所指導主事より「いわての復興教育・防災教育の推進」をテーマとした講義を受けた。

(イ) HUG (避難所運営ゲーム) の演習を行った。



Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

- (1) 講演会や見学等、防災学習を重ねるごとに、災害から身を守る知識を身につけることができた。
- (2) 有識者からのポイントとなる言葉が、生徒の防災意識を高めるよい刺激となった。
- (3) 学習したことをもとに、中学生として地域の危険箇所を調査する活動に取り組むことができた。
- (4) PTA活動と連携して、保護者や地域の方と共に防災について考える機会を持つことができた。
- (5) 平成30年度学校教育活動アンケート(学校評価)の「学校は、災害への対応や安全について指導したり、必要な活動を組んだりしていますか。」の項目において、肯定的評価が生徒94%、保護者87%の高い評価であった。

2 課題

- (1) 今回の活動で学んだことを、今後の活動でも生かしていくこと
- (2) 実践継続のために来年度以降の計画を検討していくこと
- (3) 保護者や地域との連携をさらに継続し広げていくこと